

平成 27 年度政策討論会第三分科会要点記録

日時 平成 27 年 11 月 24 日

場所 第 1 委員会室

会議時間 15:00～16:00

出席者 座長 雪本 清浩

副座長 反甫 旭

池内 矢一

池田 啓子

河合 馨

岸田 厚

京西 且哲

柔原 佳一

友永 修

鳥居 宏次 (五十音順)

発言要旨 (順不同)

- 横浜市は、政令指定都市で人口も岸和田市の 20 倍で単純に比較はできないが、インターンシップ制度の内容を詳細に説明し、多方面から参加しやすい。書類関係も充実しており、受け入れる職場の業務内容も詳しく書かれ、安心して参加できる感が強い。
- 千葉市は、インターンシップの業務を外部委託しており、職員の負担軽減を行っている。本市の場合は、職員の負担を考慮するあまりに制度の拡充に消極的である。
- 浜松市は、インターンシップ制度の前段として、対象を高校生以上で保護者も含めた説明会を開催している。若い世代から業務を十分に理解したうえで、市役所への就職を希望してもらうことは好ましいことである。
- インターンシップを経験して就職している若い世代では次の世代に恩返しする気持ちでインターンシップを受け入れたいという意見もある。また、他市の先進事例を調べると、ホームページに実施要綱や感想が掲載されており、それを参考にして申し込みができる。
- 現在、本市は南大阪コンソーシアムを通じての募集であるが、本市に住んでいても大阪市内や北摂地域、他府県の大学に通っている学生もいるので募集を広報し、幅広く受け入れることのできる体制を整えるべきだと思う。
- 本市には山から海という自然がある。このインターンシップを通じて田舎体験を行ってみてはどうか。現在、丘陵地区の開発や神於山・牛滝山等の自然に触れ合うことで市に愛着を持ってもらう良い機会になるのではないかと思う。
- インターンシップの受け入れで、目的は民間と自治体の立場は違っている。サービス・生産部門それぞれ経営拡大であるのに対して、市民の福祉向上をめざす自治体での公務労働者の役割を学ぶという観点がある。選ぶひとつの部門としてとらえればいいのではない

平成 27 年度政策討論会第三分科会要点記録

か。また、数ではなく、ただ内容や情報発信等、工夫や努力が必要ではないか。

- 他の意見から、最近の本市採用職員でどのくらいインターンシップを経験しているか。もし多くいるのなら、若い職員から声をあげていくことも必要ではないか。若い人が声をあげていける職場環境づくりが大事だと思う。
- 本市も含め、泉州地域の自治体においてはインターンシップの取組み実数が少なく、本市は 21 年～26 年に毎年 2～3 名で多い年で 22 年の 7 人である。阪南市も 27 年に 3 名という状況である。他市の例では、「インターンシップ実施要領」に基づいて実施されており、前橋市では年 40 名、春日市では 5 名、その他宮城県では 40 名となっている。本市では「要領ではなく制度」としての扱いとなっており、受け入れ体制の整備・協議会と市のバランスを考慮した上で、担当課の検討を含めたインターンシップの活用が必要と思われる。
- 他市のインターンシップの取組みは、高松市はホームページで制度の概要や手引ガイドが一目でわかるように見やすくなっている。長野県佐久市は、市が市内の企業のインターンシップ斡旋の役割を果たし、交通費や宿泊費の支給も行っている。また、厚木市では市内在住、在学、就職活動で志望する大学生を受け入れ対象にしているなど、それぞれ市によってことなる。

どの市も、特徴があり様々な独自の取組みを行っている。受け入れの部署や時期もイベントの時期に受け入れるなど工夫がみられる。

とにかく、市のインターンシップの魅力をいかに広くアピールして、大学生に選んでもらえるかが問われている。

- 一般的なインターンシップの受け入れではなく、泉佐野市では「プロジェクト型インターンシップ」として実施している。市の事業を民間企業に委託するなかで、イベントショー等の企画運営スタッフに、大学・専門学校生を 10 名受け入れている。活動期間は、平成 27 年 1 月から約 1 年間と長期なので、学生のキャリア形成や社会人基礎力の形成に効果があると思われる。また、泉佐野市や泉大津市と同様に、市の広報に募集案内を掲載すべきだと思う。
 - 委員の皆さんの話を聞かせて頂き、他市と本市のインターンシップを考えてみると、周知の仕方に差があると感じた。
- 現在、仕事・アルバイトに限らず、様々な情報をインターネットから得る割合が非常に大きい。そんな中で、本市のホームページで検索しても、インターンの情報が得られないのは話にならない。もっと広く学生に対する情報提供をするべきだと考える。
- インターンシップへの取組みは大切である。岸和田市においても、もっとと工夫して、各課が取り組みしやすい方法を考えるべきである。市が主催する各種イベントへの参加や、市の仕事に関する小論文の募集等、積極的に企画すべきである。

今、参加している南大阪コンソーシアムは、堺市が中心となっている。泉州地域の広域連携として高石以南で取り組むべきである。良き人材を得るためにも、インターンシ

平成２７年度政策討論会第三分科会要点記録

ップ制度の活用が大切である。

次回にむけて

インターンシップにどのような可能性があり、本市として制度をどのように整えなければならないのかを議論する。そのための項目等を考え、会議に臨む。